

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2010.6.15

NO.198
.....

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|--|------------------------|
| ■ 年会
第34回年会開催案内（第5次）..... 1 | ■ シンポジウムのご案内 11 |
| ■ 若手の会
若手の会開催案内 9 | ■ 編集理事会だより 11 |
| ■ 研究会・支部だより
平成21年度 第6回研究会・
東海支部会のご案内10 | ■ 広報委員会からのお知らせ12 |

第 34 回年会 開催案内 (第 5 次)

1. 年会テーマ：次世代の科学力を育てる (現在、サブタイトルを検討中です)
2. 日程：2010年9月11日(土)～12日(日)

※9月10日(金)には各種委員会・会合等が実施される予定です。

第34回年会は、第33回年会と同様に、2日間の日程で実施します。大まかなタイムテーブルは表のように計画しています。今後、調整により変更になる場合があることをご承知おきください。

第34回年会 広島大会 タイムテーブル(案) (2010-04-03版)
(於:広島大学東広島キャンパス、2010年9月11日(土)～12日(日))

	前日 9/10(金)	1日目 9/11(土)	2日目 9/12(日)	
08:30				08:30
09:00		受付	受付	09:00
09:30				09:30
10:00		一般研究発表 学会企画課題研究発表 自主企画課題研究発表 (2時間)	一般研究発表 学会企画課題研究 発表 自主企画課題研究 発表 (2時間)	10:00
10:30			年会実行委員会企 画課題研究 (2時間)	10:30
11:00				11:00
11:30			休憩(15分)	11:30
12:00		総会／表彰(昼食をとりながら)・休 憩 (1.5時間)	招待講演 「科学教育研究セミナー」 (45分)	12:00
12:30			休憩 (1時間)	12:30
13:00				13:00
13:30		一般研究発表 (2時間)	インタラクティブ セッション (2時間)	13:30
14:00			一般研究発表 (2時間)	14:00
14:30	各種委員会 (1時間)			14:30
15:00		休憩・移動(30分)		15:00
15:30	理事会 (1時間)		休憩(15分)	15:30
16:00		学会企画シンポジウム (最大2.5時間)	自主企画課題研究発表 (2時間)	16:00
16:30	顧問・理事・評議 員会合同会議 (1時間)			16:30
17:00				17:00
17:30				17:30
18:00		移動(15分)	実行委員会・企画委員会 合同会議 (1時間)	18:00
18:30				18:30
19:00	若手の会 (2時間)	懇親会(18:15～) (2時間)		19:00
19:30				19:30
20:00				20:00

企業展示(2日間を通して終日)

3. 会場：広島大学（東広島キャンパス：教育学研究科、サタケメモリアルホール）
（〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1）

・アクセス方法

JR西条駅前からバス「広島大学」行に乗り、「広大北口」で下車。
（所要時間約20分、詳細は下記URL参照）
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html>

4. 主催：日本科学教育学会、後援：文部科学省（申請中）、広島県教育委員会、
東広島市教育委員会（申請中）、広島市教育委員会

5. 年会実行委員会：

[委員長] 岩崎秀樹（広島大学）

[委員] 磯崎哲夫、小山正孝、清水欽也、馬場卓也、木下博義、松浦拓也

[連絡先] 〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

岩崎秀樹 E-mail: jsse34@hiroshima-u.ac.jp

6. 内容・募集概要等：詳細が未確定の企画については決定次第、年会ホームページに掲載します

(1) シンポジウム

テーマ：科学力を育むために —行政、科学者、産業界、学会の立場から—

趣旨：今回の学習指導要領では、言語教育と理数教育の充実が中核に据えられている。

また、平成22年2月1日発行の文部科学広報（第123号）には、平成22年度の施策の中で、「独自の創造的人材育成」ではSSHの拡大、「将来を支える科学技術人材の育成・確保」では理数好きな子どもの裾野を拡大し才能を伸ばすための取組みとして、理数教育に優れた指導力を有する教員の養成などが挙げられている。このように国レベルで「科学力を育む」ことが取組まれている現状を踏まえ、本学会の役割とは何かについて議論する。

プログラム：

1) 基調講演

鈴木 寛（文部科学副大臣）

2) パネル討論（各パネリストにもお話を頂き、その後会場を交えての討論）

① 科学者の立場＋教育現場の立場

和田昭允（横浜サイエンスフロンティア高等学校・常任スーパーアドバイザー）

② 産業界の立場

篠塚勝正（経済同友会科学技術・イノベーション立国委員会委員長、沖電気工業株式会社社長）

③ 学会の立場

北原和夫（本学会顧問、国際基督教大学）

吉田 淳（本学会会長、愛知教育大学）

3) 司会

山口悦司（年会企画委員会副委員長、神戸大学）

(2) 招待講演『科学教育研究セミナー』

特定の分野でアクティブに研究されている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせていただく招待講演です。学会論文賞を受賞されました鈴木栄幸先生にご講演を頂くことになりました。

日 時：9月12日（日）午前11時45分～午前12時30分（予定）

講演者：鈴木栄幸（茨城大学）

演 題：共感的思考能力育成におけるマンガ表現法の可能性

概 要：共感的思考とは、他者の立場になって、他者の気持ちになって、かれらの言葉を想像し、それらの言葉と対話することで問題解決するような思考方法である。プレゼンテーションを初めとする説得の研究では、自分の意見やアイデアを論理的に破綻なく構成することの訓練に重きが置かれてきた。しかし、人を納得させるための「受け入れ可能なメッセージ」を構成するには共感的思考が必須である。この発表では、共感的思考の重要性をバフチンの対話理論に基づいて示すとともに、共感的思考の支援手法であるマンガ表現法（自分のアイデアをマンガで表現し、それをもとに振り返りをおこなう手法）の実践事例と応用可能性について論じる。

司 会：稲垣成哲（神戸大学）

(3) 学会企画課題研究発表

① テーマ：行政から見たESD

趣 旨：ESDには学校などの教育機関、NPO、国・都道府県・市区町村といった行政機関など様々な主体が関与する。とりわけ市区町村は住民の生活に直接関与し、また教育や環境保全などの「現場」にもっとも近い行政であることから、地域のESD推進の要となっている。現在、各地の先進的市区町村において、「持続可能な開発（社会）のための教育（ESD）」の促進に資する智恵と工夫が蓄積されつつある。その中には、全国に広めていくべきものが多数有り、本セッションではそのような自治体の「智恵袋」から、その一端を披露していただき、フロアーの方々とその智恵を活かす方法、体制について議論したい。

オーガナイザー：荻原 彰（三重大学）、加藤 浩（放送大学）

登壇者：自治体のESD担当者（北九州市、長野市、東京都板橋区）、環境市民（NPO）の方（以上、調整中）

指定討論者：荻原 彰（三重大学）

司 会：加藤 浩（放送大学）

② テーマ：科学教育における統計的思考の育成

趣 旨：「知識基盤社会」においては、現象から特徴を抽出し、新しい知を生み出す基として、不確実な事象を集散的にみることで特徴をとらえたり、また、社会事象をアンケートなどで科学的に分析したり判断したりすることが重要とされている。そこで、統計的探究の意義やプロセスを理解し、活用することが必要となり、統計的思考力に注目が集まっている。これらの状況を反映して、新学習指導要領の小中高校の算数・数学においては、一貫して統計的思考力の育成に力をいれ、さらに、理科や社会や総合的な学習の時間などでも統計が活用され、教科「情報」の中でも、統計の指導が行われている。また、企業を対象に行われたアンケート調査結果でも、数学の中で最も知ってほしい知識の1つに「統計」が挙げられている。社会に出てからのニーズは確実に増している。本課題研究では、この「科学教育研究」第35巻の特集の告示文の背景を踏まえ、科学教育という観点で統計的思考の育成について、統計教育の歴史的背景、科学教育全体の課程編成、企業など人材育成、そして、学校現場での実践などの観点から「統計的思考の育成」の方向性を議論する。

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）

登壇者：木村捨雄（鳴門教育大学・沖縄国際大学）、大高 泉（筑波大学）、西村圭一

(国立教育政策研究所)、西仲則博(奈良教育大学附属中学校)、清水貴宏(パナソニックセミコンダクター社)

(4) 実行委員会企画課題研究発表

テーマ：科学技術リテラシーと新しい学習指導要領

趣旨：近年、科学的リテラシーあるいは科学技術リテラシー育成の在り方の論議や具体的な実践が行われている。そこでは、科学的あるいは科学技術リテラシーとは何か、新しい学習指導要領との関係はどうあるべきか、理科や算数・数学の授業を通してどのようにそれを育成するか、などが中心に議論されている。ところで、リテラシーそのものは、言語力あるいは教養の系譜を持っている。そこで、この課題研究では、新しい学習指導要領を視野に入れ、少し視点を変えて、自然科学だけではなく、人文・社会科学をも含めたすべての科学を支えるリテラシーの育成について、具体的実践研究を基盤に議論する。

オーガナイザー：猿田祐嗣(国立教育政策研究所)

登壇者：広島大学附属福山中・高等学校：竹盛浩二(副校長)、山下雅文(理科)、服部裕一郎(数学)

指定討論者：小川正賢(東京理科大学)、長尾篤志(国立教育政策研究所)

(5) 自主企画課題研究発表

① 科学教育からみたエネルギー・環境教育

オーガナイザー：小田泰史(蒲郡市立形原北小学校)・平賀伸夫(三重大学)

発表者：○間瀬智広(高浜市立翼小学校)

○高野 智(財団法人 日本モンキーセンター)

○大池和豊(四日市市立西陵中学校)・池内典史(日本板硝子株式会社四日市事業所)・相澤一弘(日本板硝子株式会社四日市事業所)・倉田彰久(四日市市立笹川中学校)・飯田一巳(四日市市立三重北小学校)・森田 定(四日市市立山手中学校)・植松佳子(四日市市立川島小学校)・長崎雅子(四日市市教育委員会指導課)・稲毛弥生(四日市市教育委員会教育支援課)・中村隆志(四日市市教育委員会教育支援課)・平賀伸夫(三重大学)

○打田晃士(三重大学大学院教育学研究科)・原宏介(名古屋市立弥富小学校)・平賀伸夫(三重大学)

② 初等・中等教育における統計的思考力を育成する実践研究と今後の展開へ向けて

オーガナイザー：栢元新一郎(静岡大学教育学部)

発表者：○栢元新一郎(静岡大学)

○近藤正雄(磐田市立城山中学校)

○中本信子(筑波大学附属中学校)

○五十畑直(福井県立羽水高校)

○渡辺美智子(東洋大学)

③ 数学的モデリングの授業実践を通じて、どんな力をどのように育てるか

オーガナイザー：松寄昭雄(鳴門教育大学)

発表者：○新井 仁(長野市立柳町中学校)

○岡留優介(広島大学附属中・高等学校)

○藤原大樹(横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校)

○椿 広計(統計数理研究所リスク解析研究センター)

○松寄昭雄(鳴門教育大学)

○柳本 哲(京都教育大学)

指定討論者：○池田敏和(横浜国立大学)

- ④ これからの学校教育における説明・証明研究の展望 III
 オーガナイザー：茅野公穂（信州大学）
 発表者：○大塚慎太郎（筑波大学大学院）
 ○牧野智彦（宇都宮大学教育学部）
 ○中川裕之（教育測定研究所）
 ○辻山洋介（筑波大学大学院）
 ○宮川 健（上越教育大）
 ○茅野公穂（信州大学教育学部）
- ⑤ マンガという教育メディア II
 オーガナイザー：竹中真希子（大分大学）
 発表者：○寺野隆雄（東京工業大学）
 ○中村久良（株式会社ナリカ）・大黒孝文（同志社女子大学）
 ○大黒孝文（同志社女子大学）・中村久良（株式会社ナリカ）・竹中真希子（大分大学）・稲垣成哲（神戸大学）
 ○吉川 厚（東京工業大学）
- ⑥ 科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の関係
 オーガナイザー：谷田親彦（広島大学）
 発表者：○大谷 忠（東京学芸大学）
 ○森山 潤（兵庫教育大学）
 ○山崎貞登（上越教育大学）
 ○魚住明生（三重大学）
 ○竹野英敏（茨城大学）
 指定討論者：○長崎栄三（静岡大学）
 ○磯崎哲夫（広島大学）
- ⑦ 我が国のこれからの卓越性の科学教育と教育課程編成―“科学がわかる教育”から”科学を創る教育”へ―
 オーガナイザー：吉岡亮衛（国立教育政策研究所）
 発表者：○三好美織（福教大）・磯崎哲夫（広島大）
 ○大高 泉（筑波大）
 ○北原和夫（ICU）
 ○吉村成弘（京大）
 ○伊藤康児（名城大）
 ○黒田恭史（仏教大）
 ○余田義彦（同女大）
 ○木村捨雄（沖縄国際大）
- ⑧ インタラクション・デザイン・学習 II
 オーガナイザー：稲垣成哲（神戸大学）
 発表者：○高橋 徹（東京工業大学）・生田目美紀（筑波技術大学）・楠 房子（多摩美術大学）・寺野隆雄（東京工業大学）
 ○森田裕介（早稲田大学）・瀬戸崎典夫（早稲田大学）・岩崎 勤（サイバネットシステム（株））
 ○佐藤優香（国立歴史民族博物館）・原田 泰（千葉工業大学）・小島道裕（国立歴史民族博物館）・楠 房子（多摩美術大学）
 ○井上美喜子（産業技術総合研究所）・大内久和（東京理科大学／産業技術総合研究所）・西田佳史（産業技術総合研究所）・北村光司（産業技術総合研究所）・金 一雄（産業技術総合研究所）・溝口 博（東京理科大学）
- ⑨ 持続可能な社会とサイエンス & ヒューマン・コミュニケーション
 オーガナイザー：野上智行（社団法人国立大学協会／前・神戸大学）

発表者：○三宅志穂（神戸女学院大学）・竹中真希子（大分大学）
○山中敦子（生命の海科学館）・浅井 猛（生命の海科学館）・川上昭吾（生命の海科学館）
○伊藤真之（神戸大学）・蛭名邦禎（神戸大学）・田中成典（神戸大学）・武田義明（神戸大学）・堂園いくみ（神戸大学）・前川恵美子（神戸大学）
○湯浅万紀子（北海道大学）・清水寛之（神戸学院大学）
指定討論者：○川上昭吾（生命の海科学館）

- ⑩ 社会の中の科学・技術とその教育を考える-放射性廃棄物の処理問題での合意形成に焦点を当てて-

オーガナイザー：熊野善介（静岡大学）

発表者：○興直 孝（静岡大学）
○奥野健二（静岡大学）
○熊野善介（静岡大学）
○内ノ倉真吾（静岡大学）
○中武貞文（鹿児島大学）
○三枝 新（放射線医学総合研究所）

- ⑪ 「科学教育と科学論」再考：科学史・STS・科学リテラシー

オーガナイザー：河野俊哉（暁星学園・東京大学大学院、法政大学・聖心女子大学・青山学院女子短期大学）・北田 薫（北海道大学大学院・札幌龍谷学園高等学校）

発表者：○藤岡達也（上越教育大学）
○八巻俊憲（福島県立田村高等学校・東京工業大学）
○山田俊弘（千葉県立幕張総合高等学校・茨城大学）
○河野俊哉（暁星学園・東京大学大学院、法政大学・聖心女子大学・青山学院女子短期大学）
○北田 薫（北海道大学大学院・札幌龍谷学園高等学校）

指定討論者：○小川正賢（東京理科大学）

- ⑫ これからの統計教育の方向性(4)：「活用」に向けた授業の具体像と評価について

オーガナイザー：青山和裕（愛知教育大学）

発表者：○青山和裕（愛知教育大学）
○小口祐一（茨城大学）
○永田潤一郎（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）
○西仲則博（奈良教育大学附属中学校）
○佐藤寿仁（岩手大学教育学部附属中学校）

- ⑬ 数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察－数学的活動から創造性の育成をめざして－

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）・渡辺 信（東海大学）

発表者：○清水克彦（東京理科大）
○末廣 聡（備前緑陽高校）
○氏家亮子（金沢工業高等専門学校）
○飯島康之（愛知教育大学）
○渡辺 信（東海大学）

- ⑭ 科学リテラシーの涵養に資する科学系博物館の学習プログラムの開発と体系化

オーガナイザー：小川義和（国立科学博物館）

発表者：○北原和夫（国際基督教大学）
○小川義和（国立科学博物館）
○亀井 修・永山俊介（国立科学博物館）・齊藤昭則（京都大学）
○田代英俊（科学技術館）・田邊玲奈・若林文高・岩崎誠司（国立科学博物館）
○高橋みどり（静岡科学館）・渡辺千秋（国立科学博物館）
○渡辺政隆（科学技術振興機構）

(6) 一般研究発表

発表時間は1件につき20分(発表15分、質疑5分)を予定しています。

- ・発表申込みと原稿受付期間：終了しました。
- ・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。

(7) インタラクティブセッション

ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。例えば、

- アイディアは新しいが検証の途上である研究
- 新規性に欠けるが教育実践上有効性が高い研究
- 具体物に接した方が理解しやすい身の回りのものを活用した実験方法
- じっくりと実演した方が理解しやすい自作による実験器具
- シミュレーション、分析、記録などのコンピュータソフトウェアなど、

発表や実演には、ポスターを貼るパネルと長テーブルを用意します。この範囲内で、発表や実演をしながら語り合うこともできます。また、セッションは60分程度の時間を予定しています。

- ・発表申込みと原稿受付期間：終了しました。
- ・頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。なお、一般研究発表と本セッションの両方で発表することも可能です。

(8) 若手の会

「若手の会」の幹事を中心に企画を計画中です。詳しい内容等については本レター内の「若手の会」の項をご参照ください。

(9) 総会および関連行事

日 時：9月11日(土) 午前11時30分～午後1時(予定)

注 意：大会日程をコンパクトにするため、総会および関連行事は昼食を食べながら行うことにしました。そのため、特に会員の方は**お弁当を事前予約で申し込むようにしてください。**

弁当代：お茶付き800円(9月11日(土)のみ、事前予約のみ)

(10) その他の企画

懇親会、各種委員会・会合等が予定されています。なお、第34回年会は、例年の年会に比べて日程が短いため、ワークショップはおこなわないこととしました。

7. 参加申込・参加費

(1) 年会用WEBによる参加申込期間：5月24日(月)～8月21日(土)(これ以降は当日受付とします)

(2) 学会員参加費：一般会員：7,000円(年会論文集を含む)、学生会員：5,000円(年会論文集を含む)、追加の年会論文集：1冊3,500円

★年会費の早期払込み割引：学会員のみ7月30日(金)までに払込む場合1,000円を割引きます。

(3) 非会員参加費：一般非会員：4,000円(年会論文集無し)、学生非会員：2,500円(年会論文集無し)

(4) 懇親会参加費：5,500円、9月11日(土)シンポジウム終了後

(5) 払込み方法

ゆうちょ銀行または郵便局備え付けの青色の払込用紙を用いて送金してください。このとき、一人につき一枚の払込用紙を用い、通信欄に送金内訳（参加費、懇親会費、追加論文集代など）を明記してください。

※参加費等の送金は、ゆうちょ銀行（郵便局）からの払込みに限らせていただきます。

口座番号：01370-2-48345

口座名称：日本科学教育学会第34回年会実行委員会

(6) 払込み期限：8月23日（月）まで。これ以降は振込まず、学会当日会場にてお支払いください。

8. その他

最新情報は年会ホームページに掲載します。こまめに確認をお願いします。

・第34回年会ホームページ：<http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note3/>

若手の会

若手の会：9月10日（金）の夜に、西条で集いましょう

昨年と同じく、年会の前日の夜に、若手同士のネットワークづくりを目的として、お互いの興味・関心や今後の展望を語るという会合を企画しました。

今年は、9月10日（金）です。全国の科学教育関係者が集まる年に1度の機会を利用して、お互いの興味・関心や今後の展望を語り合しましょう。

年齢制限はございません。「若手」とは、あくまでも「自称の若手」です。「自分はまだまだ元気だ」「自分はバリバリ活躍するぞ」という方々が、この会合の対象者です。

学会の非会員の方も参加できます。年会に参加予定の方、どうぞご参加ください。

若手の会に参加したら、翌日からの年会がさらにエンジョイできるはずです。

多数のみなさまの参加をお待ちしています。

■ 月 日：2010年9月10日（金）（年会の前日です）

■ 時 間：18時開始～20時終了予定

■ 場 所：JR西条駅周辺（予定）

■ 会 費：7,000円（予定）

■ 参加資格：

制限はございません。自称「若手」であれば、どなたでも参加できます。また、学会の非会員の方も参加できます。

■ 参加申込：

事前申込制です。なお、下記の点にご注意ください。

(1) 会場手配などの都合上、下記の申込期間以外の受付は、原則としていたしません。

(2) 申込後のキャンセルは、8月20日（金）までとします。

(3) 8月20日以降のキャンセルや当日欠席の場合、会費を請求させて頂く場合があります。

■ 申込期間：2010年5月24日（月）～7月31日（土）

■ 申込方法：

下記の申込フォームに記入の上、*kaoyama@aeucc.aichi-edu.ac.jp* までお申し込みください。

----- (ここから)

【申込フォーム】

氏名：
氏名ふりがな：
所属：
メールアドレス：

申込先：*kaoyama@aeucc.aichi-edu.ac.jp*

----- (ここまで)

■ 第34回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕 (愛知教育大学) *kaoyama@aeucc.aichi-edu.ac.jp*

松浦拓也 (広島大学) *takuyam@hiroshima-u.ac.jp*

三宅志穂 (神戸女学院大学) *miyake@mail.kobe-c.ac.jp*

山口悦司 (宮崎大学) *etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp*

研究会・支部だより

平成21年度 第6回研究会・東海支部会のご案内

[テーマ] 新時代に対応した科学教育

[日時] 平成22年6月26日(土) 10:00～15:35

[会場] 三重大学総合研究棟 II 1階 メディアホール

(〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577、<http://www.mie-u.ac.jp/map/campus/> の⑦)

[参加費] 無料 (会員の有無にかかわらずご参加いただけます)

[連絡先] 三重大学教育学部理科教育講座 荻原 彰

Tel: 059-231-9325 E-mail: *ogi@edu.mie-u.ac.jp*

[主催] 日本科学教育学会, 日本科学教育学会東海支部

[共催] 三重大学教育学部

[後援] 三重県教育委員会, 津市教育委員会

[プログラム] (9:30～10:00 受付)

10:00～10:10 開会

10:10～12:05 研究発表1 (午前の部 A01-A05) 発表時間 20分/件 (討論・交代を含む)

A01 実験や観察の交流を促進する Web 作成の実践とその効果

○小山史己 (津市立西が丘小学校)・下村勉 (三重大学教育学部)・須曾野仁志 (三重大学教育学部)・石井裕剛 (京都大学大学院エネルギー科学研究科)

A02 全教科・領域で学習者がとり組めるデジタルストーリーテリングの実践と原理

○須曾野仁志 (三重大学教育学部)

A03 デジタルストーリーテリング交流実践におけるデジタル作品交流システム (CASE) の活用

○西村和貴 (津市立新町小学校)・下村 勉 (三重大学教育学部)・須曾野 仁志 (三重大学教育学部)

(11:10～11:25 休憩)

A04 作図ツールを利用したグループ活動に関する教師の意図と生徒の活動の実際― 最短問題に関するケーススタディー

○藤岡 祐紀（愛知教育大学大学院教育学研究科）・飯島康之（愛知教育大学教育学部）

A05 consecutive sum の問題に関する数学的探究の多様性について―一意志決定との関わりからの考察―

○飯島康之（愛知教育大学教育学部）

12:10～13:25 昼休憩・支部総会

13:30～15:25 研究発表2（午後の部 B01-B05）

B01 新時代に向けた実験器具の製作活動―海外との研究開発の相互協力の検討―日本のアイデアを海外拠点のタイ国 IPST で製作している事例―

○大隅紀和（京都教育大学名誉教授）・中野佳昭（大阪府立千里高校）・前島孝司（横浜市立日限山中学校）

B02 GeoGebra の特性を活かした教材開発

○舟川 快（愛知教育大学大学院教育学研究科）・飯島康之（愛知教育大学教育学部）

B03 新時代に対応した算数・数学教育に関する一考察

○宮本俊光（宮城県工業高等学校）

（14:30～14:45 休憩）

B04 理科学習における学習用語の指導

○坪内弘通（岐阜県各務原市立緑苑小学校）

B05 中学2年生全員参加の森の健康診断の実践

○小西伴尚（梅村学園 三重中学校・高等学校）・荻原 彰（三重大学教育学部）

15:25～15:35 閉会

シンポジウムのご案内

シンポジウム「学校教育で地学は生き残れるか：学会と教育現場との連携に向けて」を日本第四紀学会と共催します。

[日時]：6月19日（土）13～18時

[場所]：早稲田大学 22号館 202教室

[詳細]：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/event/qr.html>

編集理事会だより

査読状況

1. 新規投稿論文（2010. 3. 4～2010. 5.19）：15篇（内訳：和文15篇、英文0篇）

2. 査読中論文（5月19日現在）：16篇（内訳：7篇：1回目、1篇：再投稿待ち、4篇：2回目、

1 篇：査読員選定中、3 篇：担当編集委員による総合判定中（1 回目）

3. 掲載決定論文（5 月 19 日現在）：19 篇（内訳：招待論文 2 篇、研究論文 14 篇、資料 3 篇（34-2：18 篇、34-3：1 篇））

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（2010 年 5 月 19 日現在）

	新規投稿論文数（篇）				掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2009 年 6 月	6		22	1	3 (33-3)	2 (33-3)			1	
7 月	1		14		4 (33-3)				5	
8 月	6	1	19	1	1 (33-3)					
9 月	6		18		3 (33-4)				3	1
10 月	24		34		4 (33-4)				5	
11 月	6	1	30	1					9	
12 月	3		25	1	4 (34-1) 1 (34-2)				4	
2010 年 1 月	6		26	1	1 (34-1)				1	2
2 月	5	1	24	2	1 (34-1) 4 (34-2)				2	
3 月	4		15	2	7 (34-2)				8	1
4 月	6		16	1	2 (34-2)		2		5	
5 月	5		15		2 (34-2) 2 (34-3)		2		2	

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 198 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 web サイトにある「お問い合わせ」(web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：東原義訓（信州大） 荻原 彰（三重大）
 委 員：加藤久恵（兵庫教育大） 二宮裕之（埼玉大） 土田 理（鹿児島大学）
 藤岡達也（上越教育大） 渡辺政隆（科学技術振興機構）
 小倉 康（国立教育政策研）久保田善彦（上越教育大）
 幹 事：福井智紀（麻布大） 茅野公穗（信州大）

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連） TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
 E-mail : jsse@nacos.com

□編集事務局（論文投稿・査読編集）

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
 TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

中西印刷（株）学会部 内

E-mail : jsse-hen@nacos.com
 〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会